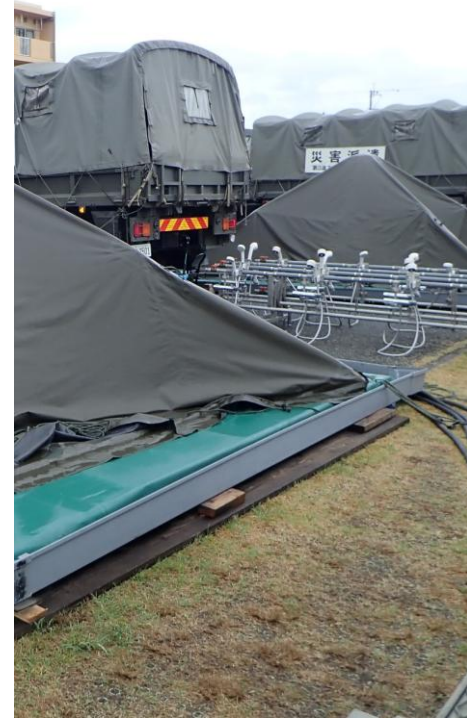


令和8年熊本地震

派遣先被災地 熊本市
任務 避難所運営支援
期間 8月6日から8月11日まで（第1クール）
危機管理室リエゾン2名
区役所3名（A班）+ 区役所3名（B班）
※24時間勤務、第2クールで終了

派遣先被災地 八代市
任務 住家被害認定調査
期間 8月19日から（第1クール）
危機管理室リエゾン2名
区役所6名

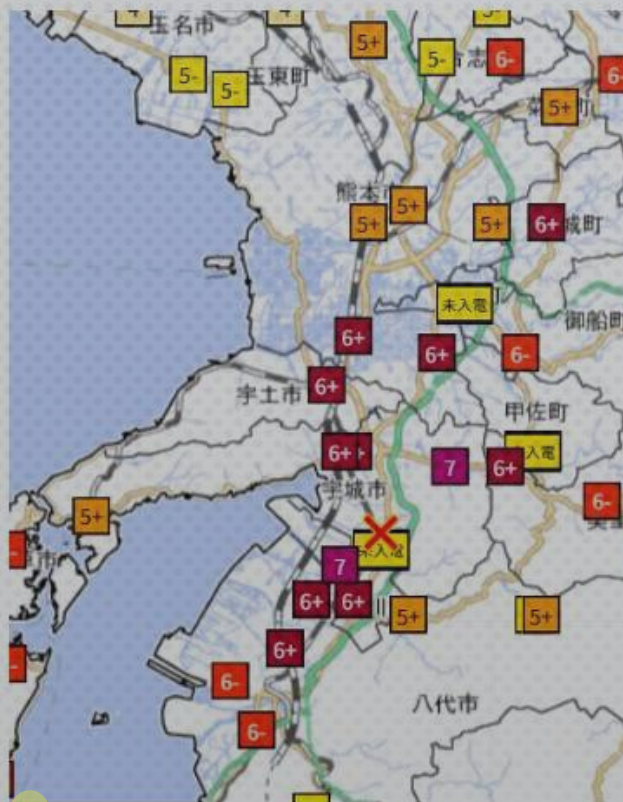


第13回熊本市災害対策本部会議資料

1 地震の概要

項目	内容
発生時刻	7月28日（火）16時27分
最大震度	7
震源の深さ	約16km
地震の規模	マグニチュード7.1

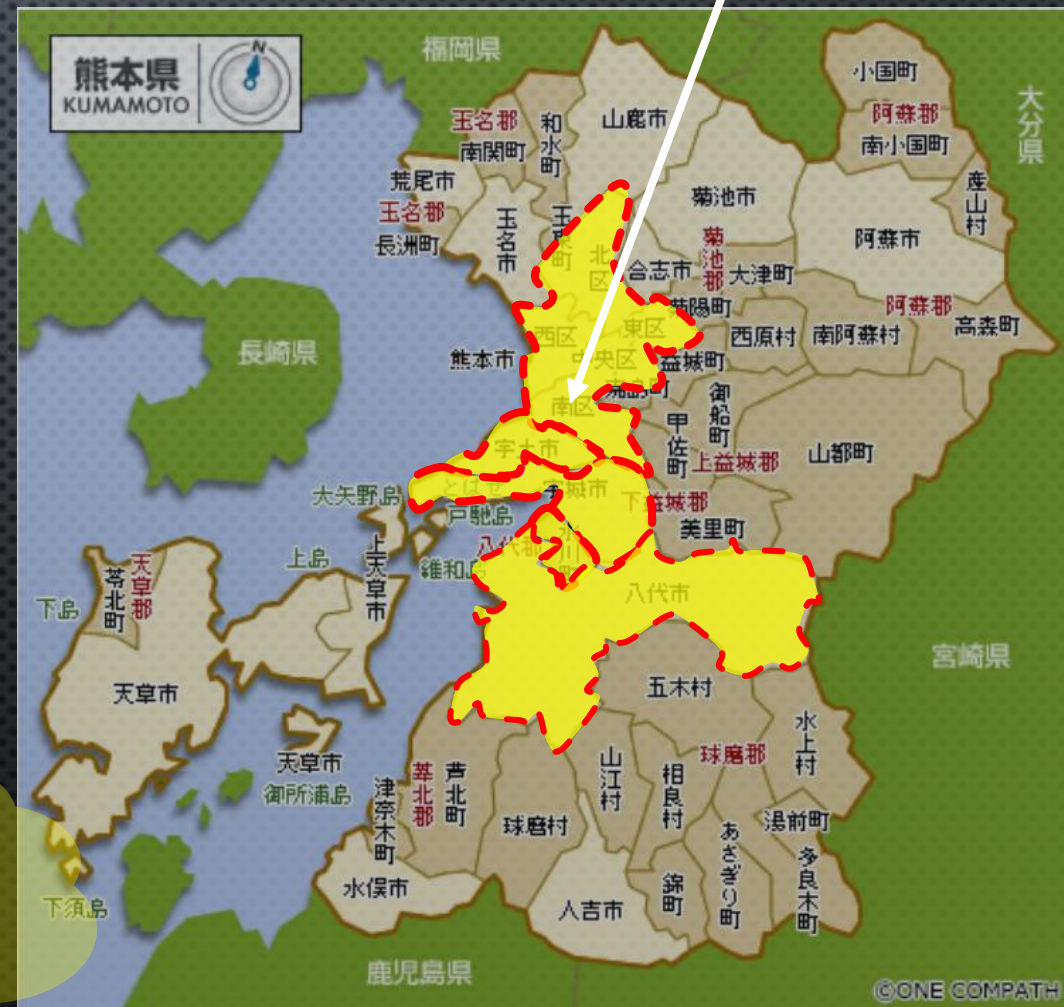
震度の分布	自治体
最大震度 7	宇城市、氷川町
震度 6 強	熊本市南区
震度 5 強	熊本市中央区 熊本市東区 熊本市西区 熊本市北区



出典：気象庁「地震情報」(<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#9/32.704/130.685/&elem=int&contents=earthquake>)
作成

熊本市全域で被災
震度 5 強～6 強
宿泊場所、市中央区（市役所付近で街中）
では特に大きな被害は見当たらず、日常生活
→ 10年前の熊本地震で被害を受けたことにより耐震化が進んでいたか
住宅の老朽化や、耐震化が進まない地域において建物倒壊被害が多く発生

大阪市
避難所支援



【八代市 日本製紙八代工場】

煙突が事務所の上に倒れ、瓦礫に埋もれた状況で10数名が閉じ込められ救出された（うち死亡8名）

大型重機の投入は活動場所の状況から困難なため、人力での救助が進められた。

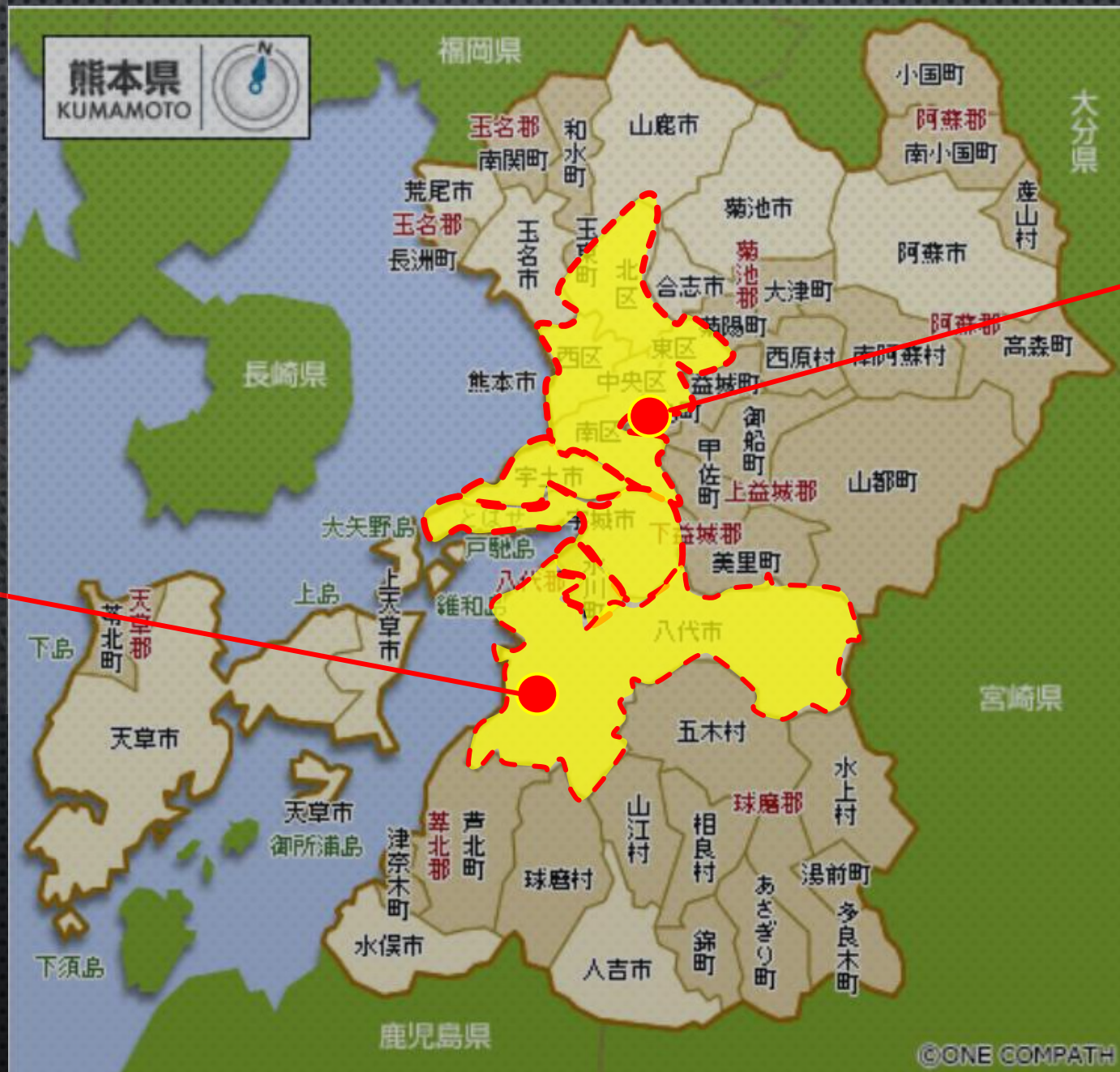
緊急消防援助隊（岡山県＋鹿児島県）が活動。

【嘉島町 イオンモール熊本】

発災後、消防機関が10数名救出（うち死亡7名）

地元の上益城消防、緊急消防援助隊（福岡県＋佐賀県）が自衛隊、警察機関と連携し活動。

LPガスの漏洩が爆発の原因と言われており事故調査委員会を設置との報道。



熊本市派遣
・自衛隊

・自治体（対口支援）

1都7県18市

・自治体（個別協定等）

1区12市2町

※8月6日時点

第13回熊本市災害対策本部会議資料

4 支援団体等の状況

【関係機関】 2団体

・自衛隊、熊本県

※黄色：現在活動中 灰色：活動終了 無色：今後活動予定

対口支援 26団体（1都7県18市）

【全国知事会】

・東京都（※1）、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、（※1）総括支援

【指定都市市長会】

・札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、福岡市

【個別協定等】 15団体（1区12市2町）

・東京都港区、北九州市（※2）、福井市、宮崎市、海安市、高槻市、松山市、須崎市、西予市、総社市、珠洲市、荒尾市、山鹿市、小国町、長洲町（※2）保健師派遣

8/6（木）12時時点【受入人数】31団体 252人【実績（延べ）】35団体 1,159人

第13回熊本市災害対策本部会議資料

5 被害の状況（8月6日（木）12:00時点）

人的被害						
死者	安否不明者	行方不明者	重傷者数	中等症数	軽負傷者数	分類未確定
0名	0名	0名	3名	51名 （+1名）	11名 （-1名）	3名※

※未分類については、情報支援室に架電があったものの事実について確認ができていないもの。

【消防局出場件数】
救急出動：1,348件（+142件）（うち災害に起因する事案81件（+4件））
火災：7件（±0件）（うち災害に起因する事案5件）
救助要請：16件（±0件）（うち災害に起因する事案9件）

住家被害 計5,204棟（+870棟）						
全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	分類未確定
4棟	0棟	1棟	7棟 （+4棟）	29棟 （+5棟）	1,707棟 （+403棟）	3,456棟 （+458棟）

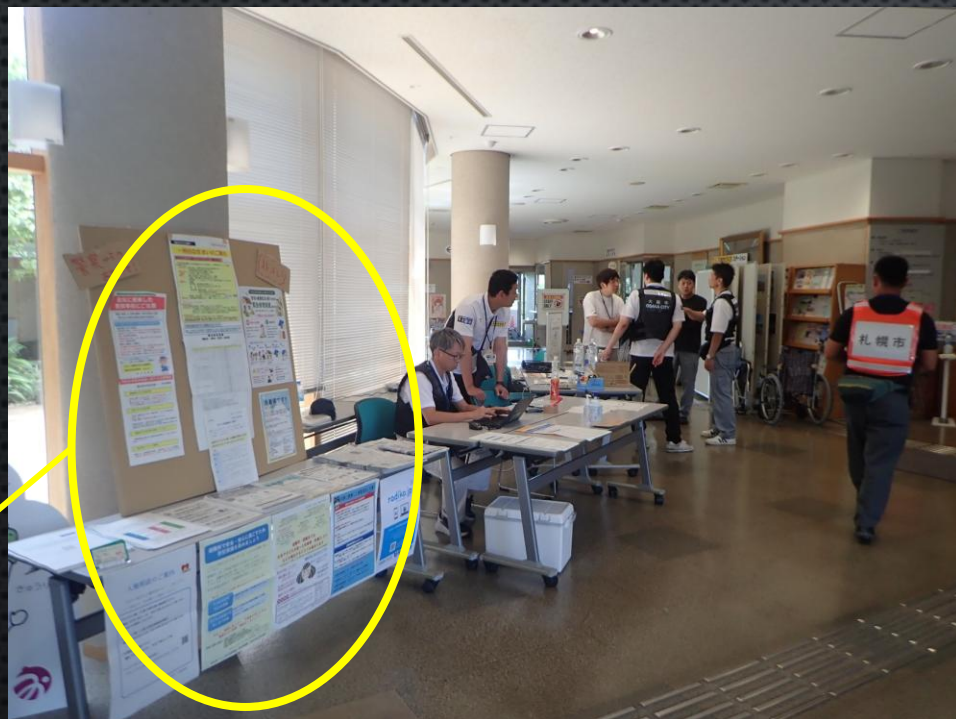
※現在も調査継続のため、数値は変動する可能性あり。

熊本市南区 アスパル富合（富合ホール）

▶ 文化活動や市民の交流の場、ホールや学習室、図書館が併設



施設に備蓄されていた物資は避難所設置後に枯渇。主にプッシュ型の支援物資を避難者の皆さんに配付。



被災された方々へ県や、市役所、区役所からのお知らせ。量が多い！

避難所支援

- ・弁当、水、支援物資等の配付
- ・施設内の衛生管理（清掃・ゴミの廃棄・消毒等）
- ・シャワー利用者への対応（受付・清掃）
- ・定期的な巡回
- ・その他（テントの設置、段ボールベッドの作成等）





地元の企業から大量にキウイフルーツ（500個）の寄付。毎食デザートにキウイ、一人2つ以上？



熊本市南区のもう一つの拠点避難所（火の君文化センター）の様子。当時は、100名以上の方が避難していた。

プライベート空間は、段ボールを用いて作成、囲まれた空間を好まない方々は私的空間の設置はなし。



事前の災害協定により、近隣の給食事業者が配給も実施。

段ボールベッドの作成
段ボールに補強を入れ、強度を確保。6つで1セット（シングルベッド相当の大きさ）



【所感】

衛生管理 ◎

平成28年熊本地震において災害関連死が多数発生した教訓を踏まえ、保健師による避難所の衛生管理及び看護師による避難者の健康管理が適切に実施されていた。また、歯科医師会による巡回が行われ、口腔ケアが提供されていたことから、保健・衛生面における支援体制は手厚いものであった。

防犯体制 ○

被災県内外を問わず警察官による巡回が多く（1日2～3回程度）、防犯面における一定の抑止効果があったと感じた。

避難者の確認・物資配付 △

高齢者等で自ら買い出しに行けない避難者に対し、支援物資（朝食・昼食等）の不足により十分な提供ができない場面が見受けられた。あわせて、被災者であるものの避難所に滞在していない者への物資提供の在り方について検討が必要性感じた。また、避難者数が日々変動する避難所においては、プッシュ型支援物資の需給調整が困難であり、不足又は過剰供給となる事例が生じた。

避難所の運営 △

熊本市においては、他都市職員が避難所運営支援に従事しており、運営手法が施設ごとに異なっていた。避難所施設の位置や構造上の問題もあり、避難所間で生活環境に差が生じている状況が見受けられた。

避難所の特性

従事した避難所（アスパル富合）は高齢避難者が多く、歩行困難者及び軽度の障がいのある者も見受けられたことから、福祉的機能の比重が高い避難所であった。

行政サービス情報の周知 △

避難所内では、被災者向けの支援制度等に関する案内文書が事業別に掲出又は配架されていたものの、避難者からは「内容が複雑で分かりにくい」「当該支援を知らなかった」等の意見が多数寄せられた。避難者の状況を丁寧に聴取し、必要な支援へつなげる（マッチングする）ための人員の確保が必要であると感じた。

※ 熊本市南区においては、市内の他区と比較して被害の程度が大きかった。

一方、県南地域において大きな被害を受けた八代市及び宇城市等と比較すると、インフラが相対的に整備されていたことから、施設のハード面に関しては大きな課題は認められなかった。

また、支援物資は適宜配送され、支援業務に従事した避難所における生活環境（QOL）は概ね良好であった。

A person wearing a blue uniform and a headlamp is shown in profile, moving a large cardboard box in a warehouse or storage area. The background is filled with various items, including more boxes, a green traffic cone, and a blue tarp. The scene is dimly lit, with the person's headlamp providing a focal point of light.

ありがとう
ございました